

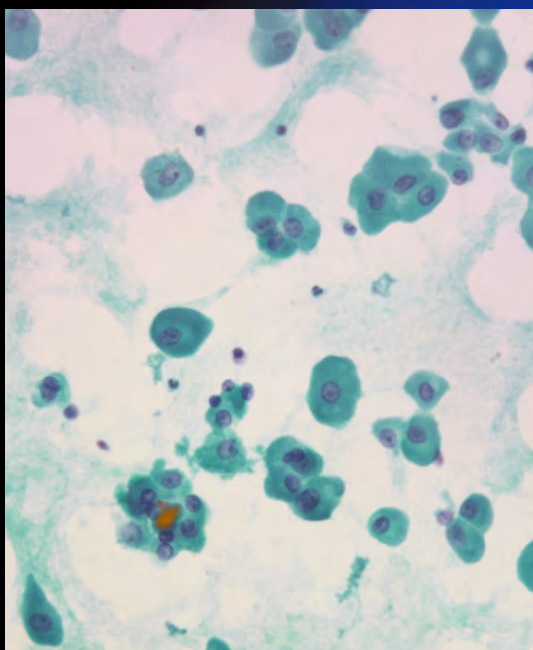
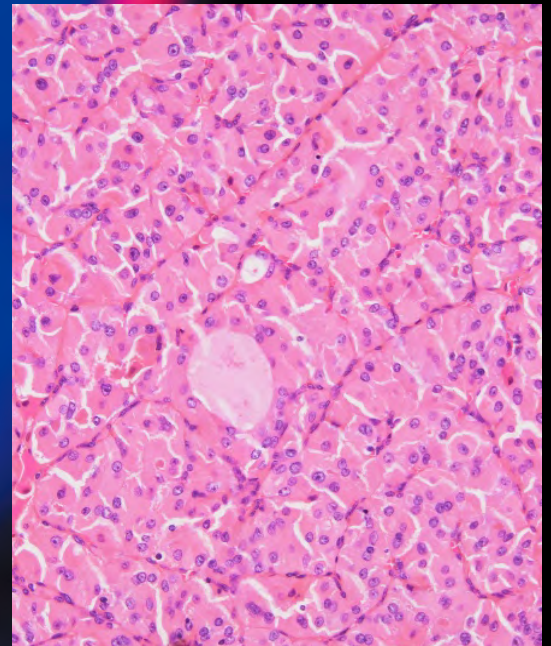
ONLINE ISSN 1882-7233
PRINT ISSN 0387-1193

日臨細胞誌
J.Jpn.Soc.Clin.Cytol.

第62卷 第3号 令和5年5月

日本臨床細胞学会雑誌

THE JOURNAL
OF THE JAPANESE
SOCIETY OF CLINICAL
CYTOLOGY



公益社団法人
日本臨床細胞学会

<http://www.jscc.or.jp/>

Vol.62 No. **3**
May 2023

目 次

巻頭言.....井上 健

〈原 著〉

新型コロナウイルス感染症の細胞診への影響——日本臨床細胞学会認定施設年報集計からみた全国調査報告——
.....堺市立総合医療センター臨床検査技術科 佐々木伸也・他 (139)

〈症 例〉

IUD 捺印細胞診にて診断された子宮放線菌症の 1 例——NGS を用いた菌叢解析による起因菌の模索——
.....慶應義塾大学医学部産婦人科学教室 今枝 慶蓉・他 (145)

多数の印環細胞が出現した中皮腫の 1 例——細胞学的な鑑別診断に注目して——
.....独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター病理診断科 鶴岡 慎悟・他 (151)

尿細胞診で便成分が検出された結腸膀胱瘻の 3 例
.....公立松任石川中央病院病理診断科 ニツ谷千鶴・他 (159)

〈短 報〉

細胞像の経時的変化が確認された甲状腺好酸性細胞型濾胞癌の 1 例
.....大阪医科薬科大学病院病理部・病理診断科 有我こずえ・他 (164)

投稿規定.....(168)

編集委員会.....(178)

日本臨床細胞学会雑誌投稿論文規定チェックリスト.....(180)

—————*—————

〈表紙写真〉

甲状腺好酸性細胞型濾胞癌

(左：パパニコロウ染色，右：H-E 染色) (有我こずえ・他，左：Fig. 1a, 165 頁，右：Fig. 2b, 166 頁)

CONTENTS

Editorial.....Takeshi Inoue

Original Article

Impact of the COVID-19 pandemic on cytopathology services in Japan

—Based on annual reports of accredited facilities—

Shinya Sasaki, et al. (Dept. of Clin. Lab., Sakai City Med. Center, Osaka)(139)

Clinical Articles

A case of uterine actinomycosis in which *Actinomyces mediterranea* was detected by analysis of the bacterial flora in microbiologic analysis of an intrauterine lavage specimen in a patient with long-term IUD implantation

Keiyo Imaeda, et al. (Dept. of Obstetrics and Gynecol., Keio Univ. School of Med., Tokyo)(145)

Mesothelioma with many signet ring cells—Focusing on the cytological differential diagnosis—

Shingo Tsuruoka, et al. (Dept. of Diagnostic Path., Saitama Med. Center, JCHO, Saitama)(151)

Three cases of enterovesical fistula with fecaluria detected by urinary cytology

Chizuru Futatsuya, et al. (Dept. of Diagnostic Path., Public Central Hosp. of Matto Ishikawa, Ishikawa)(159)

Brief Note

A case of thyroid oxyphilic cell follicular carcinoma followed-up by fine needle aspiration cytology

Kozue Ariga, et al. (Dept. of Path., Osaka Med. and Pharmaceutical Univ. Hosp., Osaka)(164)

Notice to contributors.....(168)

Cover Photo

Oxyphilic cell follicular carcinoma

(Left : Pap. stain, Right : H-E stain) (Kozue Ariga, et al., Left : Fig. 1a, p165, Right : Fig. 2b, p166)



巻頭言

Takeshi Inoue

井上 健

大阪市立総合医療センター病理診断科

▶ 現代医療における細胞診の役割について



令和4年度の大阪府臨床細胞学会の学術集会を終え、ほっと一息いれているところに、矢納編集委員長より一通のメールをいただきました。内容は巻頭言の執筆の御依頼でしたが、今後の学会の向かう先をお示し頂きたいとのことでした。そのようなあまりにも大きなテーマを私ごときが書けるはずもなく、どのようにしてお断りしようかと悩んでいたところ、メールを最後まで拝読しますと、執筆内容に関してはまったく制限が無いとのこと、つまり何を書いても許されるのであれば、と心が動き始めたところに、お考えをそのまま執筆頂けることが唯一の願いです、と締めくくられていました。ここまで来ると私にはお断りする術はございません。現在世間はWBCで大変盛り上がり、日本は14年ぶりに優勝を決めたところで、大谷選手を筆頭に、華々しいスター選手にスポットが当てられ、これを機にプロ野球選手を目指す子供たちも増えてくると思います。しかしながら、それを支える数多くの人が日夜奮闘してこそスター選手の活躍があるということをお断りしているのでしょうか。

この十数年、私は現代医療に同じような感覚を持っています。医療全体が、診断学よりも治療学の占める比重が大きくなり、がん医療においても、鏡視下手術からロボットによる低侵襲手術、さまざまな種類の分子標的薬の出現、 γ ナイフや陽子線治療など、さまざまな治療法が開発され、医学生や研修医もそれらの前線に立つ、いわばスポットライトの当たる診療科への希望者が多いように思われます。一方で、がん医療を支える病理医を目指す若手医師はこの数年減少傾向にあります。細胞診に目を向けてみますと、低侵襲で繰り返し検査を行うことが可能な細胞診は、子宮頸がん検診や肺がん検診でその威力を発揮してきましたが、欧米では子宮頸がん検診は細胞診からHPV単独検診への移行にあわせて細胞診件数が減少しており、近い将来、本邦でも同様のことが起こる可能性があります。肺がんについても各種画像診断技術の発達にともなって、喀痰細胞診件数は減少の一途をたどっており、がんのスクリーニングとしての細胞診の役割は年々小さくなっているものと思われます。また、人工知能(AI)の出現により、顕微鏡下にガラス標本をみて判断する細胞診の行方が不透明となっているのが現状ですが、私自身は、細胞検査士や細胞診専門医の役割がAIに置き換わるのはまだかなりの年月を要すると考えており、特に細胞検査士を超えることが可能かどうか懐疑的にみえています。現在自動化が実現している末梢血の血算に目を向けますと、塗抹標本の目視による分類が正しい診断には不可欠であり、塗抹



標本の目視が極めて重要な症例も知られています。例えば EDTA による偽性血小板減少症という病態があります。採血管内の抗凝固剤である EDTA により血小板が凝集する現象がおこり、自動血球測定器では凝集した血小板はカウントされないため、みかけ上血小板が著減しているものです。ヘパリン血による再測定で正常値であることにより EDTA 誘発偽性血小板減少症と判断されますが、塗抹標本 1 枚を目視することにより、凝集した血小板集塊を容易に見出し、即時に判断が可能です。このように、細胞診標本よりもはるかに自動化のすすんでいる血算においても、目視による判断は重要であり、ましてや骨髄穿刺液塗抹標本では自動化はすすんでいない現状を考えると、細胞検査士の役割はまだまだ継続していくものと思われます。

がん医療における細胞診に話を戻しますと、スクリーニングとしての役割が縮小しており、良悪性の判断や組織型の推定についても、正確な診断という面では組織診にはかないません。しかしながら、細胞診は標本作製までの時間が短く、迅速な判断が可能であり、胃粘膜下腫瘍や膵癌における EUS-FNA や肺生検での ROSE では細胞検査士は重要な役割を果たしています。また、組織型の判断についても状況によっては組織診よりも細胞診が有利なことがあります。例えば脳腫瘍の術中迅速診断時には圧搾細胞診が極めて有用なことはよく知られています。凍結切片では核分裂像や細胞質突起が不明瞭なことが多いのに対して、圧搾細胞診標本では極めて明瞭にそれらを判断することが可能です。数年前のことですが、脳腫瘍の術中迅速診断時に凍結切片をみますと、非常に多形性の強い細胞が密に増生しており、一見、膠芽腫を疑いましたがどうも違和感がありました。同時に作製した圧搾細胞診標本では細胞質突起がほとんどみられず、背景に lymphoglandular bodies が明瞭で、非定型的ながら悪性リンパ腫の疑いと報告しました。永久標本による免疫染色などを経て B 細胞性リンパ腫の結論を得た症例であり、脳腫瘍の術中圧搾細胞診が極めて有用であることを再認識した症例です。

近年がんゲノム医療が進む中、本学会では「がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針」が作成されました。しかしながら現状では、薬事承認上は標準治療終了後の再発難治例あるいは希少がんの FFPE 検体もしくは血液中の cell free DNA を用いての遺伝子パネル検査であり、その主な目的としては治療ターゲットとなり得るような遺伝子異常を見つけ出し、治療につなげるというものです。細胞診検体は、FFPE と比較して核酸品質が良好であり、今後細胞診材料を用いての遺伝子パネル検査への適応拡大が期待されます。さらに、がんゲノム医療の応用がさらに広がり、再発予測やモニタリングにも利用される際には、細胞診は低侵襲で繰り返し採取することが可能であることから注目が集まることになると思われます。ここまでみてくると、病理・細胞診に関わる皆様は、最前線で治療に取り組むスポットライトが当たるスター選手ではないかもしれませんが、そのスポットライトをコントロールするいわば監督・コーチとしての重要な役割を担っているのではないでしょうか？そしてこの『日本臨床細胞学会雑誌』は、次世代を担う若手の活躍の場であり、現在どのようなところにどのような形でスポットライトが当たっているか、逆にスポットライトが当たっていない領域はどこか、などを知る上で有用な情報源となり得ると考えています。本学会雑誌のさらなる展開に期待しながら、会員の皆様の御活躍を祈念して、本稿を終えることといたします。

公益社団法人日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

筆頭著者及び投稿者は日本臨床細胞学会会員に限る。なお、編集委員会で認められた場合に限り、筆頭著者及び投稿者が会員以外であることが容認される。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説、原著、調査報告、症例報告、特集、短報、編集者への手紙 (Letter to the Editor)、読者の声である。(依頼原稿については後述)
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、他誌に発表されていないものに限る (10章にて詳述)。
- 3) 論文作成に際しては、プライバシー保護の観点も含め、ヘルシンキ宣言 (ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告) ならびに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省、経済産業省 (令和3年3月23日、令和4年3月10日一部改正) <https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf>) が遵守されていること。

※これらの指針は、学会誌各年1号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し、著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ(自身のホームページ、所属機関のリポジトリなど)においては表題、所属、著者名、内容要旨の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し、著者全員の利益相反自己申告書(様式2)を添付すること。なお、書式は <http://www.jssc.or.jp/coi/> からダウンロードして用い、署名欄には自署する。この様式2に記載した利益相反の内容は論文末尾、文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は、同部分に、「筆者らに、開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 電子投稿とする。
- 2) 電子投稿の際には、以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jjssc/>

4. 執筆要項

- 1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名、常用漢字、現代仮名づかいを用いる。ただし、固有名詞や一般に用いられている学術用語はその限りではない。
- (3) 度量衡単位は cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
- (4) 外国人名、適当な和名のない薬品名、器具及び機械名、または疾患名、学術的表現、科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞及びドイツ語の名詞の頭文字に限る。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」(<http://jssc.or.jp/wp-content/uploads/2015/05/kaisetsu.pdf>) に準拠すること。また、その略語を用いても良いが、はじめに完全な用語を書き、以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方

本誌電子投稿サイトの指示に従う (<https://www.editorialmanager.com/jjssc/>)。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

表題ページ、本文、図、表の説明 (Figure legend)、
参考文献: Word, RTF, TXT
図: TIFF, JPEG, PDF
表: Excel

なお、図 (写真を含む) の解像度は、雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ、内容要旨、索引用語 (key words)、本文、利益相反状態の記載 (様式2の内容は論文末尾に添付する)、英文要旨、文献、図及び表の説明、図、表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1枚目) には、当該論文における修正稿回数 (初回、修正1など)、論文の種別 (原著、症例報告、短報など)、和文の表題 (50字以内)、著者名、所属のほか論文別刷請求先、著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2枚目には内容要旨、索引用語を記載する。本文は内容要旨とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし、それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：12 名以内

調査報告：10 名以内

症例報告：10 名以内

短報：6 名以内

編集者への手紙：6 名以内

総説：1 名を原則とする

(3) 内容要旨

編集者への手紙を除いて 500 字以内（短報は 300 字以内）にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的, 方法, 成績, 結論

症例報告：背景, 症例, 結論

短報：原著または症例報告に準ずる

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を 5 語以内で表示する。原則として、第 1 語は対象、第 2 語は方法、第 3 語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌 4 例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology

肝細胞癌についての 1 考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review

喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな 1 例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum,

Metastasis, Case report

(5) 本文及び枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文, 文献を含め 10,000 字以内 (おおむね A4 判 20 頁程度) とする。

表は, 10 枚以内とする。

図 (写真を含む) の枚数に制限はないが, 必要最小限の枚数とする。

b. 症例報告

本文, 文献を含め 6,000 字以内 (おおむね A4 判 12 頁程度) とする。

表は, 5 枚以内とする。

図 (写真を含む) に制限はないが, 必要最小限の枚数とする。

c. 短報

文字数を 3000 字以内とする。

図は 4 枚以内, 表は計 1 枚までとする。

d. 編集者への手紙

本誌に掲載された論文に関する手紙形式の短い論文 (追加検討, 著者への質問, 論文に関連する問題提起など) を, 編集者への手紙の形で受け付ける。見出し等の形式は定めない。図は 2 枚以内, 引用文献は 6 編以内, 著者は 6 名以内, 要旨は不要, 刷り上がりは概ね 2 ページ以内とする。

(6) 英文要旨

本文とは別紙に, 表題の英訳及びローマ字つづりの著者名, 所属の英文名, 及び要旨内容を記す。

著者名のあとに, 以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M.D., M.D., M.I.A.C. あるいは M.D., F.I.A.C.

歯科医師：D. D. S. とし, それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C. などを記載する。

要旨内容は英語で 250 語以内 (ただし表題, 著者名, 所属名は除く) とし, 以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに 100 語以内にとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30 編以内

症例報告：15 編以内

短報：10 編以内

編集者への手紙：6 編以内

総説：特に編数の制限を定めない

b. 引用順に並べ, 本文中に肩付き番号を付す。

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし, 誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会, 英文文献は Index Medicus に準ずる。参考として以下に例を記載する。

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで, 欧文名は姓のみを

フルスペル, その他はイニシャルのみで3名まで表記し, 3名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al”と略記する). 表題(フルタイトルを記載). 雑誌名 発行年(西暦); 巻: 頁-頁. (電子版のみ公開の時点及びdoiのみの文献では, doiでも良い)

【単行本の場合】

著者名, 表題, 出版社名, 出版社所在都市名, 発行年(西暦).

なお, 引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名, 単行本の表題を記し, 出版社名, 出版社所在都市名, 発行年, 頁-頁.

(8) 図(写真を含む)・表

- a. 図, 表及びそれらの説明(legend)に用いる文字は英文で作成する. 図, 表はFig.1, Table 1などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する.
- b. 本文中には図, 表の挿入すべき位置を明示する.
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する. 顕微鏡写真(細胞像, 組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが, 写真へのスケールの挿入が好ましい. 顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか, または写真にスケールを入れる.
- d. 他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は, 著作権者より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で, これを証明する書類を添付する.

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される. 特集企画者は, 特集全体の表題(和文及び英文)及び特集の趣旨(前書きに相当)を1,200字以内にまとめる. 原稿の体裁は原著・総説に準じる.

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので, 本誌掲載論文に関する意見, 本学会の運営や活動に関する意見, 臨床細胞学に関する意見を掲載する. ただし, 他に発表されていないものに限る. 投稿は以下の所定の書式・手順による.

- (1) 表題は和文50字以内とする. 表題に相当する英文も添える. 改行して本文を記述する.

末尾に著者名(資格も付記), 所属施設名, 同居所の和文及び英文を各々別行に記す. 著者は1名を原則とする. 文献は文末に含めることができるが, 表・写真・図を用いることはできない. これらの全てを1,000字以内(A4判2頁以内)にまとめる.

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する. なお, 投稿

内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には, 本委員会より該当者に執筆を依頼し, 併列して編集することがある.

7) 英文投稿の場合

A4判縦にダブルスペースで和文論文について記載した各種論文の分量(おおむねのページ数)を目安とする.

和文要旨を付し, 図・表その他は和文の場合に準ずる.

8) 英文校正証明書

投稿時, 著者は和文論文の英語部分, 英文論文の全文について英文校正を終了し, 校正証明書の添付を要す.

5. 別 刷

別刷を希望するときは, 校正時に部数を明記して申し込む.

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し, その結果を筆頭著者に通知する. 審査にあたっては査読制をとる. 原稿の組体裁, 割付は編集委員会に一任する.

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う. 出版社から送付された校正は, 必ず3日以内に返送する. 校正担当者が筆頭著者以外の時は, 校正の責任者と送り先を投稿時に明記する. 校正では間違いを訂正する程度とし, 原稿にない加筆や訂正は行えない.

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし, 超過頁の掲載料は著者負担とする. 白黒写真製版代及びカラー写真, 邦文論文の英文校正料は学会負担とし, 別刷代については半額免除とする. 英文論文の場合は, 英文校正料は学会負担とし, 図版費を含めて掲載料を免除し, 別刷代の半額を免除する.

9. 依 頼 原 稿

依頼原稿は, 総説または原著の形式とし, 査読を必要とせず, 著者校正を行う. 依頼原稿の著者は, 日本臨床細胞学会会員に限らない. 図・表に関しては, 和文での作成を許容する. また掲載料に関しては全額免除とする. 依頼原稿の形式は, 原則として自由であるが, おおよそ総説または原著の形式とし, 編集の観点から編集委員会が形式の変更を執筆者に依頼する場合がある.

10. 二重投稿の取り扱いについて

二重投稿の定義に関しては, 日本臨床細胞学会としては

International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE)¹⁾が提唱する基準を参考にし、査読の時点で違反が認められた場合、本誌への採用を行わない。また、既に掲載された論文が二重投稿であることが判明した場合は、その旨の警告を本誌及びホームページに掲載し公開する。具体的には、以下の場合を二重投稿と判断する。

1. 既に同一言語で他誌に発表されたか、あるいは他誌に投稿中の論文と内容が同じとみなされた場合
2. 本誌に投稿された論文の図表等の一部が既に他誌に発表されているにもかかわらず、既報の論文を引用していない場合
3. 言語を問わず、既報の論文を故意に引用していない場合
ただし、以下の場合は二重投稿とみなさない。
 - 1) 政府が命じた調査や、国民の健康衛生上早急に公表されねばならない情報で、公的機関や他の学協会から掲載を依頼され、編集委員会(委員長)が認めたもの
 - 2) 学会発表の抄録あるいはポスターとして発表されたもの(本文中にその旨を記入。例:本論文の要旨は第〇回〇〇学会にて発表した。)
 - 3) 極めて限定された読者を対象とした刊行物(例えば院内ニュースレターなど)に掲載された論文
 - 4) ICMJE¹⁾が認めている、いわゆる二次出版(secondary publication)にあたるもの。

なお、投稿者は以下の事項に留意する。

- ・著者は論文投稿に際し、論文の一部が他誌に掲載予定あるいは掲載されている場合は、そのコピーを投稿論文とともに提出し、査読を受けること。
- ・査読委員は査読に際して二重投稿と考えられる論文を発見した場合、速やかに編集委員会(委員長)に報告すること。
- ・本学会員は本誌への投稿のみならず、他誌に投稿される場合も、二重投稿にならないよう留意すること。

参考文献

1. International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Overlapping Publications. <http://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf> (accessed on May 8, 2020)

11. 本規定の改定

投稿規定の改訂は、編集委員会にて決定し、本学会理事会の承認を得る。

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 1992年(平成4年) | 6月一部改定 |
| 1994年(平成6年) | 6月一部改定 |
| 1997年(平成9年) | 6月一部改定 |
| 1999年(平成11年) | 6月一部改定 |
| 2009年(平成21年) | 5月一部改定 |
| 2009年(平成21年) | 6月一部改定 |
| 2009年(平成21年) | 11月一部改定 |
| 2010年(平成22年) | 4月一部改定 |
| 2010年(平成22年) | 9月一部改定 |
| 2011年(平成23年) | 3月一部改定 |
| 2011年(平成23年) | 8月一部改定 |
| 2012年(平成24年) | 4月一部改定 |
| 2014年(平成26年) | 5月一部改定 |
| 2018年(平成30年) | 11月17日一部改定 |
| 2019年(平成31年) | 3月23日一部改定 |
| 2019年(令和元年) | 9月24日一部改定 |
| 2020年(令和2年) | 11月21日一部改定(二重投稿に関する規定追加, 等) |
| 2021年(令和3年) | 4月17日一部改定 |
| 2022年(令和4年) | 2月12日一部改定 |

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが、直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年の1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
- ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 URL (<https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf>)

| | |
|--------------|------------|
| 1962年(昭和37年) | 本誌発刊 |
| 2003年(平成15年) | 7月30日本規定制定 |
| 2004年(平成16年) | 12月28日全部改正 |
| 2008年(平成20年) | 7月31日全部改正 |
| 2020年(令和2年) | 11月21日一部改定 |

NOTICE TO CONTRIBUTORS

1. Authorial responsibility :

The first author and the corresponding author of this journal must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology. In case of editorial committee's permission, they can be non-members of the society.

2. Categories of articles :

- 1) The categories of articles which can be submitted in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, *letter to the editor*, and *reader's voices* (*requested articles* will be mentioned later).
- 2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.
- 3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethical Guidelines for Medical and Biological Research Involving Human Subjects (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Ministry of Health, Labour and Welfare, Ministry of Economy, Trade and Industry, Only Japanese text available), including privacy protection.
 - * These guidelines appear in the first issue in every year of this journal.
- 4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.
- 5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as a part of the initial manuscript submission process. The form should be downloaded from <http://www.jscc.or.jp/coi/> and should be signed by each author. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from <http://www.jscc.or.jp/coi/>. The statement has to be listed at the end of the text.

3. Submission style :

- 1) Manuscripts should be submitted electronically.
- 2) For initial submission, please access the site below. (<https://www.editorialmanager.com/jjscc/>)

4. Instructions for manuscripts :

1) Text and writing style

- (1) Manuscript is to be written in Japanese or English.
- (2) Manuscript written in English doesn't need a Japanese abstract.
- (3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg, etc.).
- (4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Capital letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.
- (5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared in accordance with the web site (<https://www.editorialmanager.com/jjscc/>).

3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, RTF, and TXT are recommended for text, and legends : TIFF, JPEG, and PDF are recommended for Figures : Excel are recommended for Tables.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for figures for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

- (1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure statement, English abstract, references, legends, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. Title page should contain the number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article, case report, brief note*, etc.), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

(2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

Original articles : no more than 12

Investigation reports : no more than 10

Case reports : no more than 10

Brief notes : no more than 6

Letter to the Editor : no more than 6

Review articles : just one author, as a general rule

(3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, 300 characters for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following. "*Letter to the Editor*" doesn't need an Abstract.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Brief notes : similar to *original articles* or *case reports*

Review articles and *special articles* : headings are to be selected according to content.

(4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and

beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

—Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

—A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

—A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

(5) Text and page limitations

a. *Original articles, review articles, and investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (approximately 20 pages of A4 size), including text and references.

Tables should not exceed 10.

Figures should not exceed minimal necessary number.

b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (approximately 12 pages of A4 size), including text and references. Table should not exceed 5.

Figures should not exceed minimal necessary number.

c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed 3,000 characters. No more than 4 figures and no more than one table can be included.

d. *Letter to the Editor*

A short letter-style note, which is concerned to a paper published on this journal, can be submitted as "*Letter to the Editor*" (additional report, question to the author, a comment on a published paper). Titles (study design, results, etc.) in the text are not designated. Two figures, 6 references, and 6 authors can be contained. Abstract is unnecessary. The amount should be approximately within 2 pages at publication style.

(6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physician

For clinical laboratory technologists : MT ; CT, JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 250 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

Brief notes : abstracts for *brief notes* should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

(7) References

- a. Only major references are to be listed.

Original articles, special articles, and investigation reports : no more than 30 titles

Case reports : no more than 15 titles

Brief notes : no more than 10 titles

Letter to the Editor : no more than 6 titles

Review articles : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.

- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 3 authors spelled out, with

initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "*et al*"). Title (full title should be given). Name of the journal (space) Year of publication : Volume : Page numbers. (just after publication or for the journal which has only doi, 'no more than doi' is acceptable)

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Name of the publisher, Place of publication, Year of publication. If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, name of the publisher, place of publication, the year of publication, and page numbers.

(8) Figures, tables

- a. Figure and table titles and their legends are to be written in English. Figures and tables are to be numbered thus : Figure 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.
- b. Clearly state where the figures and tables should be positioned in the text.
- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the figure was taken will be used as the magnification for photomicrographs (figures of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the figure. For electron micrographs, the magnification at which the figure was taken should be stated or scales included in the figure.
- d. If figures and tables from another published work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

5) **Style of special articles**

Special articles are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the

same as for *original articles* and *review articles*.

6) *Reader's voices*

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society of Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corresponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

7) *English manuscripts*

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed the amount of the approximate numbers of A4 paper pages, which were mentioned for Japanese-written manuscript of each type. Figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

8) *Certification of proofreading*

At submission, the authors should have the manuscript proofread by native English speaker, and should submit certificate of proofreading as a PDF file simultaneously.

5. *Reprints* :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first

galley proof.

6. *Review of the manuscript* :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

7. *Proofreading* :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted. Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is not already in the manuscript can be added or corrected.

8. *Publishing fee* :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color figures, and for English proofreading. Half the charges for reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

9. *Requested articles* :

Although the form of the requested article is at the author's own choice, it may be generally accepted near the style of *review articles* or *original articles*. In a case, editorial board may request the author for changing the style.

10. *Duplicate submission* :

If a given submission came to be a "duplicate submission", whose criteria we would like to concern proposed by "International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE)¹⁾", it would be rejected at the time of its review. Or, in the case that a subscription revealed to be a "duplicate submission" after publication, this situation would be known publicly with caution on this journal and on our Society's web site. The editing committee would

recognize a submission as follows :

- 1) The submission which was thought to be similar to another one which has already been published in the same language, or which has the same contents as the other submitted elsewhere.
- 2) The figure or table, which has already published on another journal, without referring to the previous journal.
- 3) The submission doesn't refer to the previous manuscript regardless of the language it uses.

On the other hand, the following will not be recognized as a duplicate submission :

- 1) The researches or information 1) that was ordered by the government and should be made open immediately for public health and welfares, 2) that was recommended to be reprinted by public organization and another academic society, and 3) the editing committee (the chairperson) recognizes it.
- 2) The content which has already published in an academic meeting as a proceeding or a poster (the author should mention in the text of the manuscript, the name and number of academic meeting where that was opened.)
- 3) The manuscript printed or opened in the media which is distributed in a very restricted area (hospital newsletter, for example)
- 4) So called secondary publication which ICMJE¹⁾ acknowledges.

The author should pay attention to some points as follows :

- ✓ The author should submit concomitantly the copy of one's manuscript, which has already published or to be published in the future, at the submission to JJSCC to be reviewed.
- ✓ The reviewer should notify the duplicate submission to the editorial committee (chairperson) immediately after awareness of it.
- ✓ All the members of this association should avoid duplicate submission not only to JJSCC but also to other journals.

Reference :

1. International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Bio-

medical Journals : Overlapping Publications. <http://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf> (accessed on May 8, 2020)

11. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change. The change of the rules for submission is to be acknowledged by editorial committee. The change of economic issue such as submission fee or of ethical policy, which is considered to be important, should be accepted by the governing board of the society.

- (Partial revision June 1992)
- (Partial revision June 1994)
- (Partial revision June 1997)
- (Partial revision June 1999)
- (Partial revision June 2009)
- (Partial revision November 2009)
- (Partial revision April 2010)
- (Partial revision September 2010)
- (Partial revision March 2011)
- (Partial revision April 2012)
- (Partial revision May 2014)
- (Partial revision November 2014)
- (Partial revision December 2014)
- (Partial revision March 2015)
- (Partial revision January 2017)
- (Partial revision November 17th. 2018)
- (Partial revision May 23rd. 2019)
- (Partial revision September 24th. 2019)
- (Partial revision November 21st2020)
- (Partial revision April 17th. 2021)
- (Partial revision February 12th. 2022)

Appendix 1. Submission of manuscripts to Acta Cytologica

Please go the new Acta Cytologica website (www.karger.com/acy) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

—Declaration of Helsinki

—Ethical Guidelines for Medical and Biological Research Involving Human Subjects(Only Japanese text available)

History of the Journal :

This Journal was established in 1962.

This rules for submission was enacted in July 30, 2003.

Major revision was made in December 28, 2004, and July 31, 2008.

Major revision in June 2020 was made concerning double submission, categories of submission, and their volume limitations.

November 21, 2020

日本臨床細胞学会編集委員会 (令和5年~6年)

| | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 委員長: 矢納 研二 | | | | | |
| 担当理事: 大平 達夫 | 三上 芳喜 | | | | |
| 副委員長: 黒川 哲司 | 柳井 広之 | | | | |
| 委員: 安倍 秀幸 | 伊藤以知郎 | 稲葉真由美 | 岡田 真也 | 河原明彦 | 近藤英司 |
| | 品川 明子 | 田中良太 | 長尾 俊孝 | 中里 宜正 | 二村 梓 |
| | 則松 良明 | 古田 則行 | 星 利良 | 前田ゆかり | 前田 宜延 |
| | 三宅 真司 | 棟方 哲 | 渡邊 純 | | 野村 秀高 |
| 幹事: 石田 克成 | 金山 和樹 | 西川 武 | | | の田 眞紀 |
| 査読委員: 明石 京子 | 明瀬 光里 | 秋葉 純 | 秋元 太志 | 安達 聡介 | 阿部 彰子 |
| | 阿部 英二 | 新井 正秀 | 有田 茂実 | 有安 早苗 | 飯田 哲士 |
| | 五十嵐 誠治 | 碓 益代 | 池田 勝秀 | 池田 聡 | 池田 純一郎 |
| | 池田 徳彦 | 池畑 浩一 | 石井 脩平 | 石井 真美 | 石岡 伸一 |
| | 石川 亮 | 石田 和之 | 板持 広明 | 伊東 恭子 | 伊藤 崇彦 |
| | 稲垣 宏 | 稲山 嘉明 | 井野元智恵 | 今井 裕 | 今井 律子 |
| | 今野 元博 | 今村 好章 | 井村 穰二 | 岩瀬 春子 | 岩田 卓 |
| | 宇佐美知香 | 碓井 宏和 | 白田 実男 | 内山 智子 | 梅澤 敬 |
| | 浦野 誠 | 卜部 省悟 | 榎木 英介 | 遠藤 浩之 | 小穴 良保 |
| | 及川 洋恵 | 大石 徹郎 | 大井 恭代 | 大久保陽一郎 | 大河戸 光章 |
| | 大崎 博之 | 大島 健司 | 大城 久 | 大谷 博 | 大塚 重則 |
| | 大沼 利通 | 大橋 瑠子 | 大橋 隆治 | 大原 樹 | 大森 真紀子 |
| | 緒方 衝 | 岡 俊郎 | 岡部 義信 | 岡本 聡 | 岡本 三四郎 |
| | 岡山 香里 | 奥川 馨 | 小椋 聖子 | 刑部 光正 | 尾崎 敬 |
| | 小田 義直 | 小貫 麻美子 | 小野里香織 | 小野 瀬 亮 | 小山田 裕行 |
| | 甲斐 敬太 | 利部 正裕 | 香川 聖子 | 柿沼 廣邦 | 垣花 昌俊 |
| | 笠井 孝彦 | 風間 暁男 | 梶原 直央 | 梶原 博 | 片岡 竜貴 |
| | 片倉 和哉 | 片山 博徳 | 加藤 拓 | 加藤 智美 | 加藤 友康 |
| | 門田 球一 | 加戸 伸明 | 金尾 祐之 | 金山 清二 | 金子 真弓 |
| | 鹿股 直樹 | 神尾 多喜浩 | 川上 史 | 川越 俊典 | 川崎 朋範 |
| | 川西 なみ紀 | 河野 光一郎 | 河野 哲也 | 河野 裕夫 | 河原 邦光 |
| | 川本 雅司 | 神田 浩明 | 菊池 朗 | 木佐貫 篤 | 岸野 万伸 |
| | 北澤 荘平 | 北澤 理子 | 木下 勇一 | 木村 文一 | 喜友名 正也 |
| | 清川 貴子 | 清永 加菜 | 草 莉 宏有 | 草野 弘宣 | 工藤 明子 |
| | 熊木 伸枝 | 久山 佳代 | 倉重 真沙子 | 栗田 智子 | 黒田 敬史 |
| | 黒田 一 | 小池 淳樹 | 孝橋 賢一 | 小材 和浩 | 小塚 祐司 |
| | 小林 博久 | 小林 佑介 | 小林 陽一 | 小松 宏彰 | 小宮 山慎一 |
| | 近藤 哲夫 | 近内 勝幸 | 今野 良 | 齊尾 征直 | 才 荷 翼 |
| | 酒井 康弘 | 坂谷 貴司 | 坂本 直也 | 坂本 優 | 嵯峨 泰 |
| | 桜井 孝規 | 笹川 寿之 | 佐々木 優 | 佐々木 素子 | 佐々木 陽介 |
| | 佐治 晴哉 | 佐藤 慎也 | 佐藤 誠也 | 佐藤 正和 | 佐藤 康晴 |
| | 郷久 晴朗 | 塩澤 哲 | 洪田 秀美 | 澁谷 潔 | 島田 宗昭 |
| | 清水 健 | 清水 道生 | 清水 禎彦 | 下釜 達朗 | 白波 瀬浩幸 |
| | 須貝 美佳 | 杉田 好彦 | 杉本 澄美玲 | 杉山 朋子 | 杉山 裕子 |
| | | | | | 酒々井 夏子 |

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 鈴木 淳 | 鈴木 直 | 鈴木雅子 | 鈴木正人 | 関田信之 | 芹澤昭彦 |
| 仙谷和弘 | 園田 顯三 | 駄阿 勉 | 高倉 聡 | 高瀬頼妃呼 | 高田恭臣 |
| 高野忠夫 | 高野浩邦 | 高野政志 | 高橋 顕雅 | 高橋恵美子 | 高橋 一彰 |
| 高橋美紀子 | 高橋芳久 | 高松 潔 | 田口健一 | 田口雅子 | 竹井裕二 |
| 竹島信宏 | 武田麻衣子 | 竹原和宏 | 田雑有紀 | 橘 啓盛 | 立山義朗 |
| 楯 玄秀 | 楯 真一 | 田中一朗 | 田中京子 | 田中尚武 | 田中綾一 |
| 棚田 諭 | 谷川輝美 | 田沼順一 | 田原紳一郎 | 玉手雅人 | 玉野裕子 |
| 筑後孝章 | 千酌 潤 | 千代田達幸 | 辻村 亨 | 津田 均 | 土田 秀 |
| 筒井英光 | 寺井義人 | 寺田倫子 | 寺戸信芳 | 寺畑信太郎 | 寺本典弘 |
| 寺本瑞絵 | 田路英作 | 徳田雄治 | 徳永英樹 | 戸澤晃子 | 栃木直文 |
| 富永英一郎 | 富安 聡 | 豊田進司 | 鳥居貴代 | 内藤子来 | 内藤嘉紀 |
| 中泉明彦 | 中尾佳史 | 中澤久美子 | 永沢崇幸 | 長嶋 健 | 中島正洋 |
| 永瀬 智 | 中塚伸一 | 仲村 勝 | 中山 淳 | 中山富雄 | 中山宏文 |
| 永山元彦 | 南部雅美 | 西尾 浩 | 錦見恭子 | 西野幸治 | 西村庸子 |
| 西村理恵子 | 西森 誠 | 西山憲一 | 丹羽憲司 | 布引 治 | 野島 聡 |
| 能登原憲司 | 野中道子 | 野村弘行 | 野本靖史 | 羽賀博典 | 橋口真理子 |
| 橋本大輝 | 長谷川清志 | 畑中一仁 | 秦 美暢 | 服部 学 | 羽原利幸 |
| 濱川真治 | 林 茂徳 | 林 真也 | 林 俊哲 | 原田憲一 | 坂東健次 |
| 阪埜浩司 | 東田太郎 | 東 美智代 | 樋口佳代子 | 飛田 陽 | 秀島克巳 |
| 姫路由香里 | 平井秀明 | 平沢 晃 | 平田哲士 | 平林健一 | 廣井禎之 |
| 福島裕子 | 福島万奈 | 福屋美奈子 | 藤井丈士 | 藤井智美 | 伏見博彰 |
| 藤山淳三 | 藤原寛行 | 二神真行 | 古田玲子 | 古旗 淳 | 星田義彦 |
| 細根 勝 | 堀江香代 | 堀 由美子 | 彭 為霞 | 前田純一 | 増田健太 |
| 増田しのぶ | 町田知久 | 松井成明 | 松浦基樹 | 松坂恵介 | 松澤こず恵 |
| 松下倫子 | 松田育雄 | 松田勝也 | 松永 徹 | 松林 純 | 松本光司 |
| 松本慎二 | 松山篤二 | 丸川活司 | 丸田淳子 | 三浦弘守 | 三浦弘之 |
| 水野美香 | 三橋 暁 | 湊 宏 | 南口早智子 | 南 優子 | 三村明弘 |
| 宮岡 雅 | 宮城 淳 | 三宅康之 | 宮崎龍彦 | 宮嶋葉子 | 宮本朋幸 |
| 村上 功 | 村田和也 | 村田晋一 | 村田哲也 | 最上多恵 | 元井 亨 |
| 元井紀子 | 許田典男 | 森定 徹 | 森下由紀雄 | 森 康浩 | 森村 豊 |
| 八重樫伸生 | 安岡弘直 | 安田政実 | 安永昌史 | 安原裕美子 | 矢田直美 |
| 谷田部 恭 | 柳川直樹 | 柳田 聡 | 柳谷典子 | 築詰伸太郎 | 矢野恵子 |
| 矢野博久 | 矢幡秀昭 | 山上 亘 | 山口知彦 | 山崎奈緒子 | 山下 博 |
| 山田恭輔 | 山田隆司 | 山田 隆 | 山田鉄也 | 山田範幸 | 山田麻里沙 |
| 山ノ井一裕 | 山本晃人 | 山元英崇 | 横井豊治 | 横尾英明 | 横瀬智之 |
| 横山俊朗 | 吉岡治彦 | 吉田 勤 | 吉田 功 | 吉野 潔 | 米田 操 |
| 米山剛一 | 龍 あゆみ | 梁 善光 | 和田直樹 | 渡辺寿美子 | 渡邊 みか |
| 渡部 洋 | | | | | |

(50 音順)

日本臨床細胞学会雑誌投稿論文規定チェックリスト ver 1.2

2022年3月12日

| | | |
|--------------------|--------------------------|---|
| チェックポイント | | |
| <共通項目> | | |
| 倫理規定の遵守 | <input type="checkbox"/> | https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf |
| 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかい | <input type="checkbox"/> | 和文をこの範囲の文字で著す. |
| CGS 単位系の使用 | <input type="checkbox"/> | cm, mm, μ m, cm ² , ml, l, g, mg |
| 医学用語 | <input type="checkbox"/> | http://jscc.or.jp/wp-content/uploads/2015/05/kaisetsu.pdf |
| 使用可能ファイル | <input type="checkbox"/> | 本文, 図表の説明: Microsoft Word®, RTF, TXT, 図: TIFF, JPEG, PDF, 表: Excel |
| 画像解像度 | <input type="checkbox"/> | 雑誌掲載サイズで 300 dpi 以上 |
| 索引用語 | <input type="checkbox"/> | 英語で 5 語以内 (原則として, 第 1 語: 対象, 第 2 語: 方法, 第 3 語以下: 内容を暗示する単語) |
| 著者全員の利益相反自己申告書提出 | <input type="checkbox"/> | http://www.jscc.or.jp/coi/ |
| 投稿論文の内容順 | <input type="checkbox"/> | タイトルページ, 内容要旨, 索引用語 (Key words), 本文, 利益相反状態の記載, 英文要旨, 文献, 図及び表の説明, 図, 表, 利益相反自己申告書 (様式 2) |
| 図, 表の説明を入れる位置 | <input type="checkbox"/> | 図, 表の上下左右ではなくテキストとして文献の後に入れる. |

| | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--------------------------|---|--|--|--------------------------------------|-----------|------------------------------|-----------------------|------------------------------|---------------------|--|
| 論文の種類は? | <input type="checkbox"/> | 総説 | 原著 | 調査報告 | 症例報告 | 特集 | 短報 | 編集者への手紙 | 読者の声 | 依頼原稿 | |
| 著者数制限 | <input type="checkbox"/> | 原則 1 名 | 12 名以内 | 10 名以内 | 10 名以内 | 原著・総説に準じる | 6 名以内 | 6 名以内 | 原則 1 名 | 原則として形式は自由 | |
| 和文の表題 (共通) | <input type="checkbox"/> | 50 字以内 | | | | | | | | | |
| 内容要旨字数制限 | <input type="checkbox"/> | 500 字以内 | 500 字以内 | 500 字以内 | 500 字以内 | 同上 | 300 字以内 | 要旨不要 | 要旨不要 | 同上 | |
| 内容要旨内の小見出し | <input type="checkbox"/> | 適宜設定 | 目的 方法 成績 結論 | 目的 方法 成績 結論 | 背景 症例 結論 | 同上 | 原著または症例報告に準ずる | 形式は定めない | 規定なし | 規定はないが概ね総説と同様 | |
| 本文の字数, 枚数制限 | <input type="checkbox"/> | 10,000 字以内 (概ね A4 判 20 ページ程度) | 10,000 字以内 (概ね A4 判 20 ページ程度) | 10,000 字以内 (概ね A4 判 20 ページ程度) | 6,000 字以内 (概ね A4 判 12 ページ程度) | 同上 | 3000 字以内 | 刷り上がり概ね 2 ページ以内 | 1,000 字以内 (A 4 判 2 ページ以内) | 規定はないが概ね総説と同様 | |
| 図 (写真を含む) の数の制限 | <input type="checkbox"/> | 制限なし 必要最小限の枚数で | 制限なし 必要最小限の枚数で | 制限なし 必要最小限の枚数で | 制限なし 必要最小限の枚数で | 同上 | 図は 4 枚以内 | 2 枚以内 | 用いることはできない | 規定はないが概ね総説と同様 | |
| 表の数の制限 | <input type="checkbox"/> | 10 枚以内 | 10 枚以内 | 10 枚以内 | 5 枚以内 | 同上 | 1 枚まで | 規定なし | 同上 | 規定はないが概ね総説と同様 | |
| 英文要旨 | <input type="checkbox"/> | 250 語以内 (表題, 著者名, 所属名は除く) | 250 語以内 (表題, 著者名, 所属名は除く) | 250 語以内 (表題, 著者名, 所属名は除く) | 250 語以内 (表題, 著者名, 所属名は除く) | 同上 | 100 語以内 (表題, 著者名, 所属名は除く) | 要旨不要 本文を和文または英文で著す | 要旨不要 本文を和文または英文で著す | 規定はないが書く場合には概ね総説と同様 | |
| 英文要旨内の小見出し | <input type="checkbox"/> | 内容に応じて適宜設定 | Objective Study Design Results Conclusion | Objective Study Design Results Conclusion | Background Case (s) Conclusion | 同上 | 小見出しをつけずに 100 語以内 | 同上 | 同上 | 規定はないが書く場合には概ね総説と同様 | |
| 引用文献 (著者数筆頭 3 名まで記載) | <input type="checkbox"/> | 制限なし | 30 編以内 | 30 編以内 | 15 編以内 | 30 編以内 | 10 編以内 | 6 編以内 | 規定はないが編集者への手紙に準ずる | 規定はないが書く場合には概ね総説と同様 | |
| 称号, 資格略号 (共通) | <input type="checkbox"/> | 投稿規定参照 (C.T.のみではなく, C.T., J.S.C., C.T., I.A.C., C.T., C.M.I.A.C., C.T., C.F.I.A.C. など, 正確に記載する) | | | | | | | | | |
| 引用順 (共通) | <input type="checkbox"/> | 登場順に並べ本文中に肩書番号を付す | | | | | | | | | |

令和五年五月二十二日発行

編集兼
発行人

公益社団法人
日本臨床細胞学会
代表者 矢納 研二

〒100-10061 東京都千代田区神田駿河台二丁目一
番一
駿河台サンライズビル三階
公益社団法人 日本臨床細胞学会
発行所
電話〇三(五七七)四六八〇 振替〇〇一〇一〇一三三五四五